



あなんカルチャー

「民謡魂 ふるさとの唄」公開収録 観覧者募集

伝統的な民謡に加え、ふるさとの唄や郷土芸能などで日本の伝統音楽を再発見する番組です。観覧を希望される方は、次の要領でお申し込みください。くわしくは、NHK徳島放送局ホームページをご覧ください。入場は無料です。

日程 5月10日(日) 18:30~20:00予定(開場17:30)

場所 市民会館

ゲスト (唄) 藤みち子、堀ひろみ ほか

(三味線) 二代目 藤本秀丈

藤本秀禎

(尺八・笛) 米谷和修

(鳴物) 荒井ふみ子

田辺三花

(はやし詞) 新津幸子

新津美恵子

司会 城島 茂 (TOKIO)

近藤泰郎アナウンサー

観覧方法 郵便往復はがき(私製を除く)に以下のとおり記入して、お申し込みください。

【往信用裏面】①郵便番号②住所③名前④電話番号

【返信用表面】①郵便番号②住所③名前

【返信用裏面】抽選結果を印刷して返送しますので何も書かないでください。

あて先 〒770-8544 NHK徳島放送局

「民謡魂 ふるさとの唄」係

申込締切日 4月20日(月) ※必着

※応募多数の場合は抽選となります。抽選結果は、4月28日(火)頃に返信用はがきでお知らせします。入場整理券は、1枚で2人まで入場が可能です。※未就学児の観覧はご遠慮ください。

※記入に不備があった場合は無効となります。※インターネットオークションなどでの転売を目的とした申込みは固くお断りします。売買を目的とした申込みであることが判明した場合は、抽選対象外とします。※ご応募の際にいただいた情報は、抽選結果のご連絡に使用させていただきます。なお、NHKでは受信料のお願いや、番組・イベント案内に使わせていただくことがあります。

放送予定日 5月31日(日) 16:00~16:44(NHK総合)

問い合わせ先 NHK徳島放送局(☎088-626-5970)

※受付時間9:30~18:00 土・日・祝日を除く)または文化振興課(☎22-1798)へ



「阿南市美術展」 出品作品募集

開催日 5月3日(祝)~5日(祝)

場所 文化会館 視聴覚室および研修室

出品資格 市内在住または出身者および本市と関係の深い方で阿南市美術協会の会員 ※小・中学生は出品することはできません。

作品規格

日本画 6号から50号までで額装または表装

洋画 8号から50号までで額装

書道 聯落以下(表装または軸仕立て、縦横自由)

写真 半切から全紙まででフスマ張り

彫塑・工芸・デザイン 横1.5m×縦1.5mまでで、展示にふさわしいように仕立てること。

※規格以外の作品は受付・展示はしません。

※額装にはガラスを用いないこと。(工芸の押し花作品のみガラス可)

※アクリル板の使用は可(日本画はアクリル板も不可)

出品点数 1人につき1部門あたり2点まで

会費・出品料 美術協会年会費1,500円

(初めて出品される方と3年以上出品されていない方は、入会金1,000円が必要)

出品料は1点につき500円

作品の受付・搬入 4月26日(日) 9:30~12:00

文化会館2階 研修室2

※この日以外は受付できません。

問い合わせ先 文化振興課(☎22-1798)へ

夢ホール ホワイエコンサート

陽射しあふれる夢ホールのホワイエで

土曜の午後のひと時を

音楽とお茶でおくつろぎください

日時 4月25日(土)

14:00~14:45

場所 夢ホール(文化会館)

演目 長唄 松の翁

楠公

出演 唄 松永忠次郎

稀音家四郎五郎

三味線 松永和佐比路

松永和佐瞳花

松永和佐友路

入場料 500円(ワンドリンク付き)

仲よしチケット(2人以上:1人につき

400円)は、前売りのみの取り扱い。電話

予約できます。

※小学生以下は入場無料

販売場所 文化会館

問い合わせ先 文化会館(☎21-0808)へ



平成26年度

阿南市文化財講座

第9回

阿波人形浄瑠璃と農村舞台

阿波農村舞台の会理事長

大和 武生さん

浄瑠璃について

浄瑠璃の起源は、中世に行われていた能楽までさかのぼる。能楽は貴族、上級階級の娯楽であったが、庶民には分かりにくいものであったため、近世に入り誰にでも分かる娯楽として、歌舞伎や浄瑠璃が発達した。浄瑠璃は15世紀末に牛若丸(源義経)と浄瑠璃姫の恋物語として語られたのが始まりで、人形を使った浄瑠璃は西宮神社が信者の獲得を目的として、夷舞(やまぶ)をしたのが最初といわれている。実際に演じていたのは、神社の庄園があった淡路島の人々で、淡路の農民が神社の使役に動員されていたことに関する。

阿波藩における人形浄瑠璃

江戸時代、淡路島は阿波藩の領地であったが、領主の蜂須賀家は淡路

島の人たちを冷遇し、阿波本藩との間に差をつけて支配することにした。そこで、淡路島には「道薫坊廻百姓」という身分が作られた。彼らは、田畑を耕すだけでは生活していけないので、人形浄瑠璃を演じて生計を立てていた。当時、百姓は生まれた土地を簡単には離れることができなかったが、道薫坊廻百姓は人形浄瑠璃の興行として全国を回ることに許された。その結果、東北の一部を除く全国に人形浄瑠璃が広がり、庶民の娯楽として楽しまれることとなった。

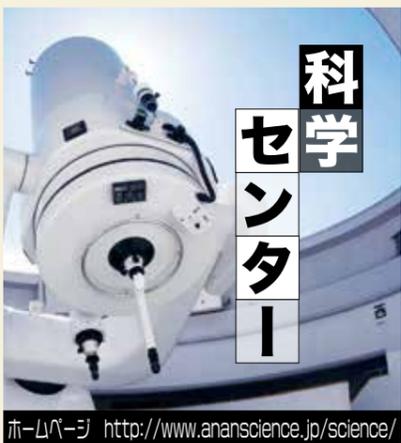
阿波藩では、農村舞台で人形浄瑠璃が盛んに演じられた。現在、全国には1338棟の農村舞台が存在するが、その内歌舞伎用が1122棟、人形舞台用が216棟ある。阿波藩には、210棟の農村舞台があるが、歌舞伎用が1棟に対し、人形浄瑠璃用の舞台は209棟となっており、人形用の農村舞台の実に97%が集中している。特に、勝浦・那賀(阿南市に編成替えを含む)・海部郡といった奥南地域に多く、神への奉納として自分たちで人形浄瑠璃を演じているのが特徴となっている。

人形浄瑠璃の歴史的役割

人形浄瑠璃は単に娯楽というだけでなく、封建的な思想や当時の道徳を庶民に普及させる役割を果たした。実際に浄瑠璃に使用されている人形を見ると、若い男性は目も口も動かすことができない。これは、黙って年長者に従えということの意味する。その他、おばあさんの頭は家庭内を支配する奥深さを表している。演じる題材だけでなく、人形の形状にも工夫が施され、娯楽のうちに封建道徳を説いたものと思われる。江戸時代も後半に入ると、『曾根崎心中』などの世話物が大流行し、「庶民」という対象が初めて演題となった。それは、庶民に自らの日常生活を見つめることを習慣づけ、芸能を多様に進化させた。そして、明治時代になると、人形浄瑠璃は職業として成り立つようになり、頭を作る人形師ともども、全盛期を迎えることになる。



人形浄瑠璃頭 新野町中村園太夫座所有



科学センター

皆既月食観望会(無料)

今回は、皆既になる時間が非常に短いため、8台の小型望遠鏡を使用して観望します。次回、日本で皆既月食が見られるのは、3年後の2018年です。**日時** 4月4日(土) 午後7時~10時 ※皆既は午後8時54分頃、**場所** 天文館2階 観望デッキ **参加方法** 当日、実施時間内にお越しください。

阿南市少年少女発明クラブ 平成27年度クラブ員募集

科学工作を中心に、年間12回程度の活動を行います。**対象** 市内の小学4年生以上 **定員** 30人(希望者多数の場合抽選) **年会費** 2000円(工作材料費) **入会方法** 4月中旬に各学校を通じて配布されるチラシをご覧ください。

問い合わせ先 科学センター (☎42-1600) へ

4月の休館日 6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)